

「認知症の専門医にここが聞きたい！」 ～医師との顔の見える研修会 第2弾～

11月の公開研修会は、『認知症の専門医にここが聞きたい』というテーマで、秋津鴻池病院認知症サポート医 洪先生と井上先生を講師に開催させて頂きました。当日は、地域の方や民生委員、事業所、病院看護師やセラピストなど約170名の方にご参加頂きました。

今回は、事前にとらせて頂いた「認知症の専門医に聞きたいこと」アンケートにより先生方へ質問させて頂くパネルディスカッション形式で進行させて頂きました。

アンケート内容には、受診や治療に関する質問が多く「どのような状態であれば入院治療の対象と判断されるのか?」「治療はどのように行われるのか?」という質問を投げかけさせて頂きました。先生方からは、「注意力の低下・入浴拒否・夜外出して戻れない」といった見当識障害や実行機能障害などの中核症状が見られるなら、先ずは相談して頂き、「徘徊・昼夜逆転・暴言暴力・拒食」など周辺症状がある場合には入院治療の対象になり得ると伝えられ秋津鴻池病院の治療の流れをスライドを使って説明して頂きました。

また、「主治医に気を使ってしまい、なかなか専門医へと繋がられない」と言った質問や、「告知」についての質問に対しては、本来の在り方に加え、アドバイスを交えてご回答頂きました。次に多かった、認知症の方への対応に関する「帰宅欲求の方にどのように関わればいいのか?」「本人を安心させるためには嘘をついてもいいのか?」、また、会場からの「食べない・水分を摂らない方への対応は?」などの質問に対しては、会場で聴講していた病棟看護師からも回答頂く場面もあり、後半は、サポート医と認定看護師・専門看護師のコラボレーションという形で進行了ました。次に、地域の方からの質問で多かった認知症予防について、井上先生から「睡眠・食事・運動(有酸素運動)」の大切さと、病棟看護師からは、「環境の変化に対応できる日ごろの活動」の大切さを伝えて頂きました。

最後に、「先生方がケアマネに求めること?」を聞かせて頂きました。先生方からは、「主治医との連携を考えている様々な方にもお願いしたい事は、普段、生活されている状況や関わっている方からの情報や気づきは医師としても知りたい情報であるため、受診時に同行した際にはぜひ教えて頂きたい。」という点を教えて頂き、病棟看護師の方からは、「今まで、どのような人生を歩んでこられたのか?その情報を頂けると、ご本人らしさを尊重した関わりに役立てられます。」と伝えて頂きました。

今回は、普段なかなか聞く事の出来ない疑問を直接医師から聞く場を設け、病院と医師を少しでも身近に感じて頂くことを目的に開催させて頂きました。今回の研修会が参加者の皆様と病院・医師との連携の強化に繋がればと願っています。

